

大学における学生相談室及びフリースペースの活用と卒業に関して

Students' Use of the Student Counseling Office and Graduation Rates

○川西利昌¹, 天野光一², 小川 貫³, 香取照臣⁴*Toshimasa Kawanishi¹, Koichi Amano², Kan Ogawa³, Teruomi Katori⁴

Abstract: The Student Counseling Office, which is a student support service, works to build strong connections with students' in their daily lives. The open space adjoining the office is used as a space for communication, relaxation or self-study, and it also functions as a psychological home. This paper analyzes four-year student utilization of the office and adjoining space and examines its relationship to the users' graduation rates.

1. はじめに

学生相談室は大学生が学生生活を送る上で、重要な役割を果たしている。学生相談室に付随してフリースペース(学生休憩室)が設置され、食事、仮眠、休憩、団欒、自習、カウンセラーとの相談前の待機場所、緊急避難、などに利用されている。フリースペースの効用は、カウンセラーへの敷居を低くしカウンセリング件数を増加できる、フリースペースでの学生同士の接触を通じて対人関係を改善でき、悩みを話すことで共通の悩みをシェアできアドバイスできる、などこれらを通じて癒しの場を提供できることにある。日本学生相談学会「学生相談機関ガイドライン」にも「学生が自由に過ごしたり学生同士が話したりできるような、居場所を設けることが望ましい」と記載されている¹⁾。

フリースペースに関する研究は、齋藤ら²⁾ら各大学での試みが発表されている。本研究は或る理工系大学におけるフリースペースの利用と学部卒業、大学院修了との関係について3年分の事例をもとに検討したものである。

2. 調査内容

調査対象は関東地方理工系 A 大学で短大、学部、大学院生計約 5 千名在籍し、年間学生相談延件数約千二百件、週 5 日開室、非常勤カウンセラー6 名、学生相談員 18 名、受付事務員 1 名である。学生相談室の広さは 46.2m²で、その内フリースペースは 11.3m²で、学生相談室受付脇にあり、机椅子、ソファ、茶菓、書籍、ゲームなどがある。Fig.1 にフリースペースを示す。同スペースには学生相談員の机椅子もあり、フリースペースに滞在する学生の様子を見たり、関与できる。隣接してカウンセラー室もあり、カウンセラーもフリー

スペースの学生に関与できる。本調査はフリースペースが開設された 2009 年から 2011 年までの 3 年間の学生相談室とフリースペースの利用者の学部卒業・大学院修了率について行ったもので、対象者は 4 年生、大学院 2 年生、延べ 93 人である。卒業率・修了率は当該年度末、卒業・修了できたものの割合である。また来室回数は年度を越えて来室しても、各年度毎の数値を用いた。



Fig.1 Open Space

3. 学生相談室と来室回数

学生相談室への学生来室数と来室回数の関係を Fig. 2 に示す。来室回数 1, 2 回程度が最も多い。2 回以内で終えているのは、相談によって問題が解決したか、相談に意味が感じられず来室する動機が無くなったか、である。相談には、単に情報を求める為に来る学生も多く、適切な情報さえ得られれば、面接は 1, 2 回で終了する。来室回数が極端に多い場合は 85 回に達することがある。

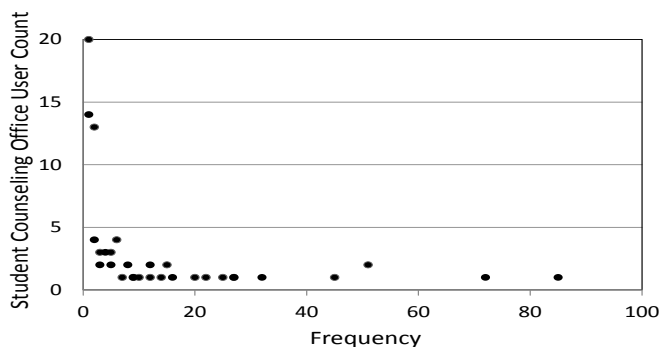


Fig.2 Student Counseling Office User Count and Frequency

1: 名誉教授 2: 日大理工・教員・まち 3: 日大理工・教員・一般 4: 日大短大・教員・総合

Fig. 3 は卒業・修了率と来室回数の関係で、来室回数が多いほど卒業・修了率が高いとは言えず、来室回数が 5 回から 30 回程度が高い。来室回数が数回では卒業・修了率 60%に留まる。学生がカウンセラーや学生相談員と一定の関係が成立した方が卒業・修了に結びつく援助ができることを示している。

4. 卒業・修了率とフリースペース

Fig. 4 は卒業・修了、留年・退学とフリースペース利用回数の関係で、5 回程度迄の利用だと卒業・修了する可能性が高い。フリースペース利用が短期間で依存が少ない方が、勉学に復帰したり、友人達に戻っていく。

Fig. 5 はカウンセラーや学生相談員との面接回数対フリースペース利用回数で、フリースペース利用回数と面接回数は連動しない。フリースペース利用よりも面接を目的に来室する学生が圧倒的に多い。一方、カウンセラーや学生相談員との面接よりも、フリースペースでの学生同士の接触や、食事、休憩を求めて来る学生も少数ながらいる。

Table1 は卒業・修了率と来室形態(面接・フリースペース併用、面接のみ、フリースペースのみ)を示したもので、面接とフリースペース双方を利用した学生の卒業・修了率が 65%と他の幾分高いが、大きな差があるわけではない。

Fig.6 は学生相談件数と年である。フリースペースを設置したのは 2009 年でこの年から利用件数が倍

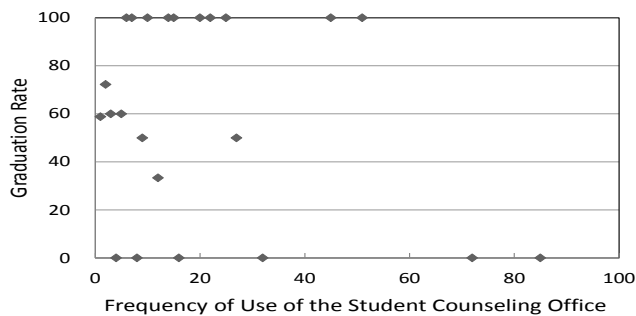


Fig.3 Graduation Rate & Frequency of Use of the Student Counseling Office

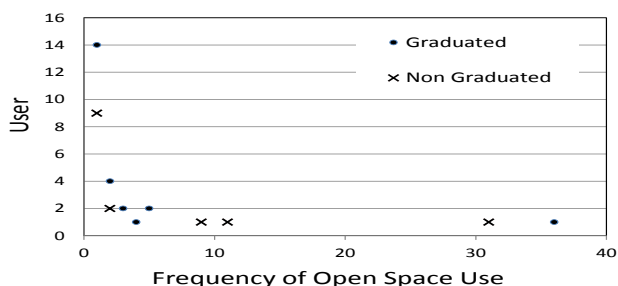


Fig.4 Users and Frequency of Open Space Use

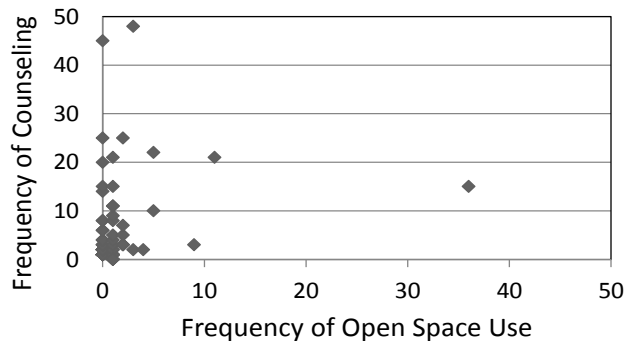


Fig.5 Frequency of Counseling and of Open Space

Table1 Type of Use of the Counseling Office and Graduation

	Total	Total			Under Graduate			Graduate		
		Non graduated	Graduated	Graduation Rate	Non graduated	Graduated	Graduation Rate	Non graduated	Graduated	Graduation Rate
Counseling & Open Space	34	12	22	65	12	19	61	0	3	100
Counseling only	55	22	33	60	21	28	57	1	5	83
Open space only	4	2	2	50	2	1	33	0	1	100
Total	93	36	57	61	35	48	58	1	9	90

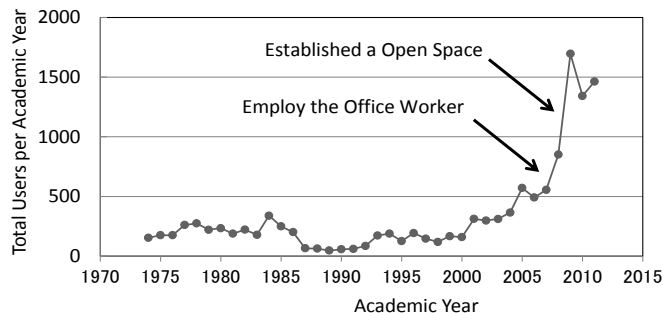


Fig.6 Total Users per Academic Year

増しているのが判る。受付事務員とフリースペースは来室件数の増加に役立っている。

5. おわりに

来室回数が多いほど卒業・修了率が高いとは言えず、来室回数が 5 回から 30 回程度が卒業・修了率が高い。フリースペース利用よりも面接を目的に来室する学生が圧倒的に多い。面接とフリースペース双方を利用した学生の卒業・修了率は高い。フリースペースは来室件数の増加に役立っている。最後にフリースペースの運営や調査にご協力下さった南雲氏、渡部氏に感謝します。

参考文献

- 1)日本学生相談学会編「学生相談機関ガイドライン」日本学生相談学会 2013 年 3 月
- 2)斎藤美香、飯田昭人、川崎直樹「学生相談における多層的支援 一居場所づくりの試み」北方圏学術情報センター年報 Vol.3、pp.143-149、2011